

神奈川県演劇連盟機関誌

ドラマ神奈川

第14号

1998年4月18日発行【神奈川県演劇連盟】

●横浜市中区福富町西通り52 ☎045-261-4866

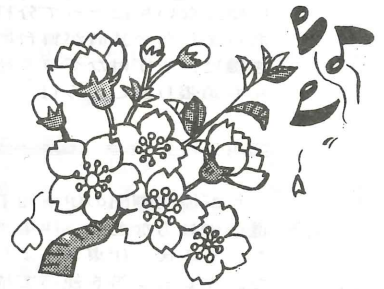
98ドラマ神奈川フォーラム 盛況にして終わる

1月17日(出)・18日(日)に横須賀で行なわれた、ドラマ神奈川フォーラム。小雨の降る中たくさんの方々が参加して賑わった。貴重な講演を聞いたり、普段交流のない劇団同志が意見を交換しあつたりと、充実の2日間だった。議論を残しつつも、好評のうちに終了したフォーラムについて、進行担当の団のぼるさんに報告して頂きます。



連盟の12劇団と他1劇団、フリーを交へ計131名の参加で開催された県下初の「演劇フォーラム」はなかなかの盛況でした。各劇団の公演の一瞬の間隙を突いて開催しましたから集まりに一抹の不安がありました。劇団の歴史や文化の違いも壁でしたが、県の「芸術文化創造推進事業費」の支援も支えになりました。トークの講師は地域の劇団としては抜群の観客数を維持している岐阜の劇団はぐるまから「こばやしひろし」さん。東京でアングラを起点に情熱を発信し今、演劇の論壇につむじ風を起こしている流山児★事務所の「流山児祥」さん。お二人には説得力があり年代を超えたパワーがありました。分科会は連盟のエキスパートスタッフを中心に6つ勉強会。夜の交流会は腹を割った演劇論に話が弾みこれも大成功。翌日のシアターは個性豊かな舞台。川崎演劇塾「さるかに合戦」蒼生樹「桃太郎侍」そしてかに座は「笛」。舞舞台といえ神奈川県下の演劇の底の広さを見せてくれました。冬のひとときを演劇人が一堂に会した記念すべきフォーラムだったと思います。事務局の面々お疲れさま。

実行委員長 団のぼる



参加者の声

・こういう会が定期的にあるとよい。・トーク&トークでは客観的な演劇状況を見ることができたが、テーマ内容とかけはなれていたようで残念との声もあった。・交流会では、他の劇団の人達と神奈川の演劇状況を話し合い、それぞれの劇団のカラーを知ったりと、非常に有意義な会だった。・会場の条件が悪かった(寒い・遠い等)。宿泊をなくして近場でやってほしかった。・プログラムの立て方に一考がほしかった。・分科会は参考になった。芝居について考え直したり、反省したり、他劇団の人と議論出来た。だが、分科会の時間が短かった。他の所も参加したかった。次回は中級コースとして、更に充実したものにしてほしい。



ドラマ神奈川フォーラム



第一音部

・トーク・トーク

小雨振りしきる中、たくさんの参加者があり、頼もしい第一部の始まりとなった。講師にお招きした、小林ひろし氏とそして流山兜祥氏お二人の、永きに渡る実践に裏付けされた中からのレクチャーの数々。参加者のほとんどにとって参考になる内容ばかりであった。聴衆からの質問も多岐に渡り、全体として積極性溢れるものとなったと言えよう。

第二音部

・第一分科会

冒頭に配られたレジメのタイトルが「装置」。変だなと思いつつも聞くにつれ、夢中になってしまいました。様々な舞台用語の解説はもちろん、基本的な装置、特にムダのないパネルの作り方やつなぎ方など、今すぐ自分の劇団に持ち帰って役に立つ内容ばかりでした。初歩的な範囲に終始した三時間でしたので、次に機会があれば中級コースとして、更に充実した内容で聞かせて頂けたら、と切に願います。その時を今から楽しみにしています。

・第二分科会

ここではまず、各劇団で抱えている制作としての問題点などをあげて、それについての意見の交換をした。どこでもある問題、その劇団固有の問題、同じ神奈川県の中にあっても地域性による問題など様々。参考になる意見を、たくさん聞くことが出来た。さらに、京浜協同劇団の講師の方に、具体的な仕事の進め方や宣伝方法を聞いたり、非常に充実した内容だった。

・第三分科会

舞台装置をまともに作ったことのない、それどころじゃなく、なぐりもろくに使えない私にとって分科会はとてもよかったです。話は少し難しいところもありましたが装置が舞台にもたらす効果など、聞けてためになりました。これを機に、まずはなぐりを使えるところから頑張っていこうと思います。みなさんも頑張りましょう!!

・第四分科会

京浜協同劇団の伊東知子さんのお話を聞きました。衣裳担当としての仕事の進行の仕方などを、伊東さんのデザイン画帳を拝見しながら、お話を伺いました。その後、伊東さんより課題が出され、実際に衣裳のデザイン画を描きました。クレヨン等を使って描いてみるのですが、自分の発想の貧困さを改めて思い知らされました。普段使わない部分の脳を使ったことにより自分の脳が活性化され、とても楽しい、かつ有意義な時間を過ごすことができました。

・第五分科会

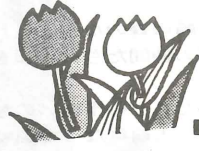
音響の分科会は、各劇団の年齢差のある人達が集まったおかげで、楽しい有意義な時間を持つことができました。難しい内容もありましたが、ここで聞いた話を自分の劇団で生かしていきたいと思っています。

・第六分科会

台本執筆経験無く劇団の都合で紛れ込んだのだが、他にも未経験の人が多かったのは誰しも一度は書いてみたいと思っていると拝察した。私のようにある現象に怒りを覚えた時その場で「ふざけんな」と発散させてしまう人間は書けないのだそう。ではどうするか。①メモ魔になる、情景言葉何でも、枕元にも忘れずに②一念発起して書き始めたら途中で止めない、一度やると繰り返す③劇団内に書き始めた人がいたら上演日を決めてしまう④出来上がりは人さまざまでもお客にわかり易いのがいい⑤後は実践あるのみ。だそう。

98ドラマ神奈川
フォーラム

← 分科会



↓ トーク&トーク

第1分科会



第2分科会



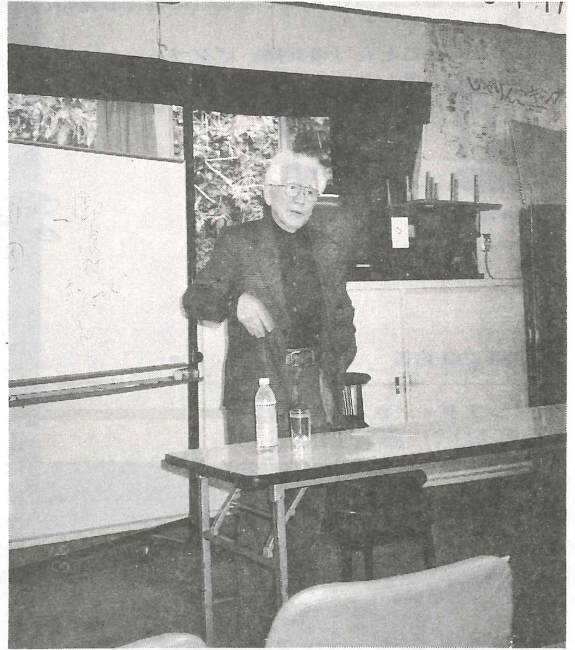
第3分科会



第5分科会



第6分科会



小林 ひろし 氏



流山 見 祥 氏

第3部

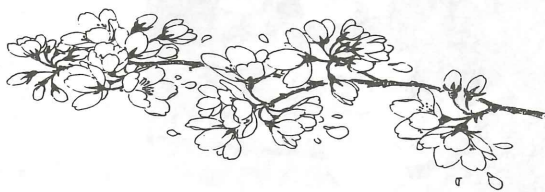
・交流会／権兵衛太鼓

人里はなれた寒風吹き荒ぶ観音崎の森のなかに、「権兵衛太鼓」の響きが轟わたりそれを取り囲む県演劇連盟の仲間たちは、顔を紅潮させ目を輝かせて見入りました。

「権兵衛太鼓」のあの鬼(?)たちとの出会いのなかで、太鼓の打ち方について、見様み真似で習得しながら一人前になっていく様を、コミカルにダイナミックに表現された舞台に、大変喜んで拍手を送っていた多くの若い女性達の姿が特に印象に残っています。

恐るおそる演劇界に足を踏み入れた若者達が、やがて次第に素晴らしい魅力的な俳優に成長していく姿を目の前にした時の感動は誰でもが体験することだと思えます。

そんなことを「権兵衛」にダブルセテ、楽しく見ることができました。フォーラムのアトラクションとしては最高でした。京浜協同の多くの仲間の皆様、ありがとうございました。



第四部

・シアター／さるかに合戦

この年になると、なかなか昔話を演じることはあっても、自分で読んだり、観たりすることがなくなるので、なんだか童心に還ったようで、なつかしくなった。でも演じる側としては、大変だったと思う。大道具も小道具も最小限、あとは自分の表現力のみ……。新人の方も何人かいたようなので、これからは楽しみです。

・シアター／桃太郎侍

感想というよりは、「こんな芝居の作り方もあるのだなあ」とおもわず見てしまったということでしょうか？反面舞台と観客の垣根を取りはずしてしまっただころが、おもしろいと思いました。

お酒飲みながら観たかった、もっとワーワーした雰囲気だったら、本当にあるべき姿が楽しめたと思うのですが。みなさん役者だなあ〜と感心しました。おもしろかったです。

・シアター／笛

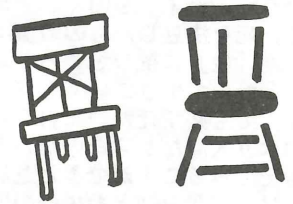
パントマイムがいたるところに入る、難しい芝居でした。見慣れていないせいもあるのですが、その動きが何を表しているのか、解りにくいところがあり、ちょっと残念です。でもこういう芝居だと、なぜそこでドアを開けるのかとか、動きの意味を考えたりできるようになりそう。稽古に取り入れるのは非常にいいことだと思いました。



98ドラマ神奈川
フォーラム



交流会



さるかに合戦 (川崎演劇塾)



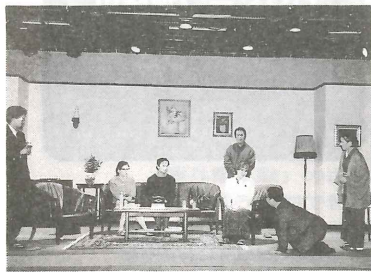
シアター



桃太郎侍 (蒼生樹)



笛 (かに座)



劇団 かに座

「さよなら
パーティ」

11/28(金)・29(土)・
30(日)

相鉄本多劇場

「幸福の木の実」これを食べると苦しまず楽に死ぬことができる。この木の実を食べようとする中年から初老を迎えた人々。様々な事情の中で死ぬことを選び「さよならパーティ」を開く。ドラマはそこから展開していく。死を決意したものの個々がそれぞれの思いでもう一度「生」に挑むところで幕となる。人間は確実に死に向かって生きていくと何かで読んだことがある。望まなくても必ず死ぬのに自ら死んでしまおうとするのはやはり人間だからなのだろうか。そんなことを改めて考えてみる事ができた芝居だった。少し気になったのは、定年を迎えた夫婦の関係が希薄だったせいかな、私の理解力のなさか、「うめ」がなぜ死にたいかがわかりにくかった。また、今回はダブルキャストであったが、役者が変わる事によって他の役者に影響があったのかどうか、私事情により1回しか観ることができなかったのが残念だった。

劇団葡萄座・R



劇★派

「ページェント」

12/10(水)

県立横須賀青少年会館
B C 会合室

私は5分ほど遅れてその場所に到着した。部屋に入ると、すでに二人の女優による音の一切しない演技が行われていた。劇★派の芝居はよく分からないと聞いていた。かく言う私は、劇★派の芝居を見るのが初めてである。

客席の真ん前に置かれたデスクに座った祭山氏の存在によって、いつの間にか、役者の演じる空間と私たちの座っている客席の空間との境界線が完全に消滅していた。

劇★派の芝居の主役は「空間」である。

それは実際には決して存在しないはずの幻の空間、演出の心の中だけに存在する叙情的な思いの空間である。

「こんな芝居の形態もあったのか…」そんな私の静かな心の驚異が一緒になってこの空間に鳴り響いていた。

物語の終わりには、今まで自らがこの異世界を作り上げていた二人の劇★派の女優によって、B Cのすべての窓という窓が開け放たれ、この四次元の空間は解き放たれた。

劇団河童座 寺坂浩一



劇団 蒼生樹

「はみだし忠臣蔵」

12/12(金)・13(土)・14(日)

教育文化ホール

まず、会場に着いて驚いたことは、開場時間前であるにもかかわらず、たくさんのお客さんが列を作っていたことです。しかも、年配の方がその大半を占め、口々に蒼生樹の年末恒例のこの芝居をどれだけ楽しみにしていたかを話しているのです。これは、スゴイことです。

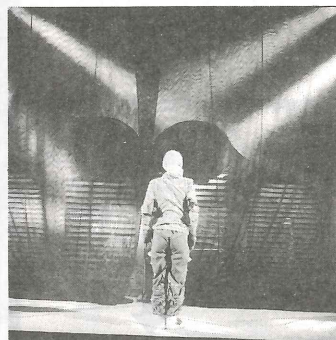
幕が上がってみると、「忠臣蔵」にしてはちょっと様子が違う。話がすすむうちに、なーんだ、そういうことか!!とストーリーがよめたと思ったのですが、大どんでんがえしの結末に、同じ忠臣蔵という題材を扱いながら、いつも発想の豊かさに感心させられます。

舞台装置は、シンプルでありながら細かい所にまで気配りされており、芸の細かさを感じました。またいつものことながら、女優陣の活躍ぶり、さすが蒼生樹!!と感心してばかり……。

強いて言えば、ところどころちょっと長いかな、と感じる所が何ヶ所あり、もう少し簡潔に、テンポ良くいけるのではないかと、思いました。

また今度は、忠臣蔵ではなく、他の題材を扱ったものも是非、観てみたいと思います。

川崎演劇塾



劇団 河童座

「Kという名の同居人」

11/22(土)・23(日)

相鉄本多劇場

12/6(土)・7(日)

県立横須賀青少年会館

ある家庭に異星人が住みついた。その異星人は姿かたちは地球人と同じだが、たった一つ、一生、人とつき合わず、自分の想像の中でだけ生きるところがちがうだけ。それが、いっしょに暮らすうちに、少しずつ他人との関係を深めていき、地球人に近くなってしまふ。それが、異星人のアイデンティティを崩すことになることに気づき、一人の世界に戻っていく。——なんだ、ありがちなストーリーなんて思っていたのに、いつの間にかぐいぐいとぐいと引き込まれてしまった。自分の中にもある異星人の部分にくすぐられたせいなのかもしれない。「K」を演じた女優の演技力なのかもしれない。おわたたあと、心地よい歯切れの悪さと自分の生き方を考えながら帰路についた。ただ、一つ感じたことは、舞台美術が、おそまつだったこと。たとえば、サイコロは、見るからにウソ!とわかるのでもう工夫があると観る側もそこで現実に戻らずにすむのではないかなと思った。

京浜協同劇団



劇団 麦の会

「日の出荘床下海流」

12/20(土)
岡野公園
青少年の家

私はあの稽古場での舞台装置が一番気になっていました。

客席は、さじきとイスが並べてあり、舞台は……トイレです。公衆便所の設定でした。なかなか良くできており、既在の窓が、又リアルさを出していました。

途中役者達の食するリンゴやワインがどうも汚そうで……そんな錯覚もする程でした。反面際明は、如何せん容量が足らずブレーカーがおりてしまうこともあり大変だったと思います。

でも芝居中真暗になっても、動じることもなく坦々と芝居が流れていくのには新人とは思えない冷静さを感じました。

また、伸び伸びと演っていて良かったと思います。



かに座 松井寧子



劇団 河童座

「奇跡の人」

2/27(金)・28(土)
県立横須賀青少年会館

市への委譲問題に揺れる横須賀青少年会館。県の施設としての最終公演となったのは河童座の「奇跡の人」。三重苦を背負ったヘレン・ケラーが家庭教師アニー・サリヴァンの献身的な指導で「言葉」を理解する奇跡を得るあまりにも有名な作品だ。

若手中心の一日目は若々しくのびやかな演技で好感がもてたが語調のくせのためか時々軽く感じられる部分があった。各々に複雑な人間関係や過去に自分が背負ってきた苦悩、あるいは希望や愛情などを表現していたがヘレンとサリヴァンの関係に周囲の人々がさらに絡んでいくことで一層深みのある舞台となったのではないだろうか。全体的にはテンポもよく一気に観ることができた。また役者、スタッフ一人一人の関わりに河童座が今回の公演に寄せる思いを感じる事ができた。今後の横須賀演劇界がどのようなようになっていくか不安ではあるが新しい施設になり、より充実した活動が展開されることを祈りたい。

(葡萄座 Y・O)

神奈川県演劇連盟 加盟劇団連絡ノート

京浜協同劇団

211・川崎市幸区古市場2-109
0952 TEL 044-511-4951

川崎演劇塾

214・川崎市多摩区寺尾台2-8-12-504 小川方
0005 TEL 044-951-9819

劇団葡萄座

220・横浜市西区宮ヶ谷2-2メゾン前橋302山本方
0006 TEL 045-311-8208

劇団麦の会

220・横浜市西区伊勢町1-61 高津方
0045 TEL 045-241-2828

劇団かに座

220・横浜市西区岡野町1-3-14 田辺方
0073 TEL 045-311-5682

横浜小劇場

231・横浜市中区福富町西通り52
横浜演劇研究所内
0042 TEL 045-261-4866

劇団蒼生樹

220・横浜市西区伊勢町3-133-824 濱田方
0045 TEL 045-242-3584

劇団横浜にゆうくりあ

220・横浜市西区中央1-30-17 泉谷方
0051 TEL 045-321-1920

劇団G/9 Project

232・横浜市南区南太田4-38-27
0006 喜楽荘106 佐藤典久方
TEL 045-716-5297

劇団河童座

237・横須賀市田浦町4-32 横田方
0035 TEL 0468-61-2666

劇団蒼い群

239・横須賀市グリーンハイツ5-2-107 村田方
0846 TEL 0468-56-3157

プロジェクト夢樹

239・横須賀市大津町4-43 吉本方
0808 TEL 0468-36-7494

劇★派

238・横須賀市上町2-1 ネバーランド内
0017 TEL 0468-27-1631

湘南ミュージカルシアター

253・茅ヶ崎市ひばりが丘1-10 前田方
0027 TEL 0467-85-4313

劇団こゆるぎ座

250・小田原市本町2-2-20 梅月食堂内
0012 TEL 0465-22-2988

公演スケジュール

劇★派

4/20(月)～22(水) 19:00(各日共) 相鉄本多劇場
演劇ワークショップ

京浜協同劇団

6/13(土)～16(火) 19(金)～21(日)
劇団稽古場 7/1(水)～5(日) 相鉄本多劇場
各日共19:00 (土曜のみ14:00もあり)
『鉄道員(ぼっばや)』浅田次郎/原作

横浜小劇場

6/20(土)14:00/18:30 21(日)13:30 関内小ホール
『山の動く日』町井陽子/作

劇団かに座

6/27(土)14:00/19:00 28(日)14:00 横浜市教育文化ホール
『風の中の街』別役実/作

劇団横浜にゆうくりあ

6/27(土)19:00 28(日)13:30/18:00 相鉄本多劇場
『伊勢佐木町ブルース』泉谷渉/作

劇団葡萄座

7/4(土) 5(日) スペースオルタ
『恋愛日記』竹内統一郎/作

劇★派

7/5(日)14:00/18:00 野毛山フラスコ
『異国の咲く花』祭山寸花/作

劇団麦の会

7/25(土) 26(日) 関内小ホール
演目未定

ワンポイント・レッスン

各劇団、本番の為の稽古以外の時、
 どのような基礎訓練を行なっているの
 でしょうか？ちよつぴり興味のある所で
 す。二つの劇団に聞いてみました。

劇団河童座 の場合

わが劇団河童座では、去年の二月から「すいしん」なる公開のワークショップを始めました。名前の由来は、河童に水がなくならないようにとの意味を込めた、「水深」……そして「水」の「心」……前に進むための力を蓄えるための「推進」……そんないろいろな意味を込め、ひらがなで「すいしん」と命名しました。

劇団というのは、どうしても目の前の公演が中心になってしまうものです。分かっていても、基礎訓練はおろそかになりがちです。いつも反省として出かけるのが、基礎訓練の不足でした。そこで、毎週水曜日には基本訓練の日と決め、どんなことがあっても本番を意識した稽古には当てないとの決意のため、劇団とは別の組織を作ったのです。

ですから、この「すいしん」は公開です。河童座のメンバーはもちろん、高校生たちや他の劇団にも声をかけて、はじめました。もちろん、劇団員全員が参加する訳ではありません。毎回集まってくるメンバーが変わることもあります。あまり義務感にとらわれず、必要と思った人間が集まることで、汗を流しながらやっています。それでも、毎回十名以上は集まるのですから、目的はどうか果たしているようです。ただ劇団員より高校生のほうが熱心であるのが、情けないところですね……。

システムとしては、横田式ワークショップの流れを取り入れ、体、リズム感、集中力を養うための基本的な訓練を中心としながら、期間的に例えば、パントマイム、踊り、殺陣、器械体操、等々……何か、目に見えて習得できるものも取り入れて進めています。これから先も、できればその方面の専門家を呼び、様々なジャンルの技を、少しでも身につけられたら……と計画しています。

基本訓練は別にして、教える側も、マンスリー形式にして、だれかがもっている技を、広く劇団内に、還元していこうと思うのです。

ただ今、問題が起きています。今まで会場としてきた、青少年会館が廃止になったため、次の場所探しをしなくてはなりません。そのため、今年三月から一時中断を余儀なくされています。四月には、新しい場所を探して始めるつもりですが、正直まだ見込みがありません。四月には、新しい場所を探しても必ず再開します。公開するので興味のある方は、ご一緒に参加してみてください。

劇団こゆるぎ座 の場合

ドラマ神奈川原稿依頼をいただきました。「おたくの劇団の基礎練習についてお書き下さい」基礎を修得する——演劇に偏らず全ての事柄に於て、基礎訓練によって培われ、磨かれたものがより優れた造詣へ近づくものだということは云うまでもありません。

劇団こゆるぎ座も、この認識を重要視し、この課題を反復するための稽古日程を活動の中に組み入れていきます。

各々の劇団は、人と同じように性質体質の個性をもって形成されており、その特性に応じた方法あるいはやり方がありと思えますが、当劇団の通常心掛けている基本のための練習を具体的に書き出してみます。

〈発声練習〉 強弱の声出し。歯切れの発音。持続発声。など
 〈身ぶり表現〉 課題に応じた表現。顔表情のつくり方。パントマイムなど
 〈呼吸法〉 腹式呼吸法。など
 〈発声術〉 イントネーション（抑揚） エロキューション（話術） アクセン
 ト（変化）など。
 〈メイクアップ〉メイクに拘わる指導と実技。

以上、これらを例題、課題の中で、実質的訓練を実施し応用へとつなげます。

しかし、これらを理想のままに進めるには現実の問題点に直面します。構成座員の年齢層の格差と技術の個人差です。すでに基礎段階を修得した人々。初歩的習得を要する人々。新入員の中でも、学校、職場等でかなりの水準を会得してきた人。同一線上での徹底練習には、その方法に悩む事態が必然的に生じてきます。又、演劇に関する意識の資質もそれぞれです。強化の為の個人指導に明け暮れる事は人によってはあまり好ましく受けとめられません。

アマ劇団は俳優をつくるための養成所ではありません。趣味の場としての演劇活動です。楽しみの根源から離脱したら興味そのものが半減するでしょう。

私達劇団が、基礎養成に必要なための合理的方法を心がけるのは、舞台公演に向けての稽古過程（芝居づくり）の中で、それらを導入しながら実践の具体的な教え込みをやり方です。

体得によつて教へ込みをみながき、成し遂げられた充実感、あるいは反省点。結局には仲間の大切さを知ること。これらは全て基本からの出発があつてこそ計れる（実感）ものだと思います。

編集後記

行事が多いと大変で、少ないとまた大変。編集者と記者の両立はキャストとスタッフ、そして演出を兼ねたぐらい大変。と一人で慰め（原田謹家）

忙しいです。毎日が。それが楽しくもあり、辛くもあり……（A）

誌面の充実をしくなくちゃと思うがアイデアが浮かばない。うーん何かいい企画はない……（平丸）

編集委員のみなさんに迷惑をかけたばなしでごめん（清水）

